

2007年2月5日

## 中期経営計画 “JIKKO-2007” の進捗について

旭硝子株式会社

旭硝子株式会社（本社：東京、社長：門松正宏）は、2005年1月に、2005年度（2005年12月期）から2007年度（2007年12月期）までの3年間の中期経営計画 “JIKKO-2007” を策定、新たな成長戦略を実行し、グループビジョン “Look Beyond” の実現を目指しています。

これまでの2年間に実施した各種施策及び “JIKKO-2007” の最終年度にあたる2007年に展開していく事業戦略等について、以下の通り取り纏めました。

### 1. “JIKKO-2007” の概要等

中期経営計画 “JIKKO-2007” では、TFT用ガラス基板を中心とするFPD事業への積極的な投資とCRT事業の収益改善、新興市場でのガラス事業の拡大、北米事業の収益改善に取り組み、既存事業の更なる成長と収益力の改善を図ります。また、次世代の成長事業としてエレクトロニクス&エネルギー事業を本格的に立ち上げます。

これらの主要施策を展開するとともに、株主価値を継続的に向上させるため、資産効率を高めながら、「**営業利益率10%以上を達成・継続**」させることを目標としています。

#### < 2007年12月期の業績見通し >

2007年12月期の業績見通しは次の通りで、“JIKKO-2007” の目標である「**営業利益率10%以上を達成**」する見込みです。

	2006年12月期 (実績)	2007年12月期 (見通し)
売上高	16,205億円	16,700億円
営業利益	1,366億円	1,800億円
営業利益率	8.4%	10.8%
D/E	0.58	0.5

### 2. “JIKKO-2007” における施策の進捗と今後の取り組み

#### (1) ディスプレイ事業

ディスプレイ事業については、CRTからFPDへ需要が急速にシフトしており、特にテレビ需要ではLCD比率が大幅に増加しつつあります。

このような状況において、以下の主要施策を展開しています。

#### CRT用ガラス

- ・想定以上に需要落ち込みのペースが速く、構造改善が遅延していたが、2006年下期以降は、改善テンポを速めて生産集約化を実施（2007年3月末にはピーク時の40%まで生産能力を削減）
- ・固定資産の減損を実施（売却可能資産を除いて固定資産の残高はほぼゼロ）
- ・今後は、残る拠点についても、コストミニマム化と最適受注を図るとともに、継続的に事業縮小を検討

### TFT用ガラス基板

- ・中計期間中に1,000億円以上の投資を実施し、製造窯6基を建設。これにより生産能力は、2004年末時点の1400万㎡/年から2007年末時点で4200万㎡/年まで増加（日本・台湾・韓国での一貫量産体制を構築）
- ・テレビでのLCD比率のアップとLCDパネルの大型化の進展により、ガラス基板需要の拡大のスピードは中計期初の予想より大幅に上振れ
- ・当社のガラス基板が環境フリーであることや、「フロート法+大型サイズ研磨」により、当社の優位性は一層向上
- ・今後は、お客様とのリレーションや既存設備の生産性改善も加味しながら、設備拡張により市場拡大に対応

### PDP用ガラス基板

- ・需要拡大に備え、日本に加えて韓国に新窯を建設するとともに、関西（住之江）工場の大型加工拠点を新設し、お客様立地による顧客満足度の向上と生産効率の改善を図る（日本・韓国での一貫量産体制の構築）
- < 量産開始予定 >
  - 韓国新窯... 2007年8月頃
  - 住之江... 2007年5月頃

## (2) ガラス事業

ガラス事業（板ガラス、自動車ガラス）における中計期間中の事業環境は次の通りです。

影響	事業環境	該当部門
ポジティブ	西欧の市況回復	板ガラス
	ロシア・東欧の成長	板ガラス、自動車ガラス
	日系自動車メーカーが好調	自動車ガラス
ネガティブ	重油など原燃材料高騰	板ガラス、自動車ガラス
	アジア経済の一部低迷	板ガラス、自動車ガラス
	日・ア地域への安値輸入品増	板ガラス
	北米建築市況の不透明感	板ガラス

このような事業環境の中、ビジネス拡張と既存拠点の収益力強化のため、以下の主要施策を展開しています。

主要施策	該当部門
新興市場での生産能力拡大 <b>【板ガラス】</b> ・ロシア（05年3月）、中国（蘇州：06年5月）での量産開始 （チェコで08年初に量産開始予定） <b>【自動車ガラス】</b> ・ハンガリー（06年初）での量産開始 （中国第2工場（仏山）で08年第1四半期に量産開始予定）	板ガラス、自動車ガラス
自動車用素板、建築用加工ガラス、太陽電池用ガラスの強化で差別化	板ガラス
欧米拠点でのビルド&スクラップによる収益改善	板ガラス、自動車ガラス
収益改善のためのコストダウン	板ガラス、自動車ガラス

### (3) 北米事業

北米地域においては、以下の通り事業全体の再構築を推進しています。

#### 板ガラス事業

- ・マネジメントを刷新し、収益改善プロジェクトを再スタート
- ・不採算となっているシナミンソン工場を閉鎖

#### 自動車用ガラス事業

- ・ビルド&スクラップ及び生産性向上施策を実施、その一環としてメキシコの工場を閉鎖
- ・ガラスアッセンブリー事業の建て直し

#### フッ素事業

- ・生産性は向上したものの事業全体の改善遅延、今後は必要な施策を遅滞なく実施

### (4) エレクトロニクス&エネルギー事業

エレクトロニクス&エネルギー事業については、中計では事業の育成期間として基盤固めを推進していますが、当社の保有するガラスとフッ素化学のコアテクノロジーを活かせる領域で「将来事業の種」を順調に育成しています。

今後は、現在好調な合成石英や液晶用バックライトチューブに加えて、光ピックアップ素子など光部品分野の成長を予想しています。

#### 半導体プロセス部材（合成石英、SiC、CMP スラリーなど）

- ・合成石英が当面の事業の核に成長
- ・画期的な平坦化性能をもつCMPスラリーを開発

#### ディスプレイ部材（液晶用バックライトチューブ、PDP用光学フィルター、フリットシート）

- ・液晶用バックライトチューブが大きく伸長

#### 光部品（光ピックアップ素子、マイクロガラス、HDD用ガラス基板など）

- ・HDD用ガラス基板に事業参入し、タイでの集中生産を実現
- ・松島光コンポーネント社（マイクロガラス事業）を買収

### (5) 化学事業

#### フッ素・スペシャリティ事業

- ・フッ素樹脂E T F Eは市場拡大に対応した安定供給力を確保  
< 増強計画 >
  - 鹿島工場... 2005年に実施済、2008年にも実施予定
  - 英国拠点... 2007年に実施予定
- ・フッ素樹脂フィルムは商品独自性で需要を創出
- ・撥水撥油剤は千葉工場に環境適合型専用設備を立ち上げ、環境指向で競合に先行（アサヒガードEシリーズ）

#### クロールアルカリ・ウレタン事業

- ・苛性ソーダ、電解関連製品は国内外で地域No.1シェアを確立
- ・ウレタン事業は汎用品からカスタムメイド品・高機能品へシフト

### 3. グループ・ブランド統一

当社は2002年にグローバル一体経営を掲げ、社内カンパニー制に移行、グループ・ビジョン“Look Beyond”を制定し、この実現に向けた経営体制を整備してきました。

当社の100周年(2007年9月)を機に、グループ・ブランドを「AGC」に統一し、ステークホルダーに広範囲にわたる当社グループの事業形態を分かりやすく伝えると同時に、AGCグループ従業員の一体感を高め、グローバル成長戦略を加速していきます。

また、グループ各社は「AGC」を冠する社名に変更し、使用するロゴをAGCに統一します。

### 4. 経営方針“JIKKO”イニシアチブへの取組み

当社はグループビジョンの浸透やES向上など7つの「主要イニシアチブ」を設定し、グループ全体での取組みを推進しています。

#### モノづくりへのこだわりと現場力の強化

- ・AGCモノづくり研修センターを開設(2006年7月)し、「実学一体教育」により人材を育成
- ・プロフェッショナル制度、マイスター制度のスタート
- ・2007年からはアジア関係会社を契機に、技術・技能伝承の取組みをグループ全体に拡大

#### CS、品質への取組み強化

- ・「CSの視点を日々の仕事に入れ込む」を合言葉にひとり一人の仕事の価値を高める活動を展開
- ・良い事例を横展開し、活動を促進するための「CS表彰」制度をスタート

以上

本件に関するお問い合わせ先：旭硝子(株)広報・IR室長 川上 真一

(担当：齋藤 TEL:03-3218-5509、Email:info-pr@agc.co.jp)